

# About Us



上廣死生学・応用倫理講座  
特任教授  
会田 薫子

上廣死生学・応用倫理講座は公益財団法人上廣倫理財団を出捐団体とする寄付講座です。2007年度に上廣死生学講座として開設され、2012年度以降は死生学に加え応用倫理も担当領域として研究と教育および実践活動を進めてまいりました。

そして2017年度にはその成果を踏まえ第3期5カ年の新たな歩みを始め、2020年度は第3期の4年目となりました。今年度も一層の研究展開と社会貢献を進めてまいる所存です。

死生学は単に「死について」の学ではなく、死を生に伴い、また生が伴うものとして、「死生」を一体として考え、人間が死生をどう理解し対処してきたかについて、人文知を背景に広く考えようとしています。その意味で東京大学の死生学研究は2002年以来、死生学を“thanatology（死の学問）”というよりも“death and life studies”として捉え、人文社会系を中心とする学際的な研究プロジェクトを進めてまいりました。

当講座は死生学の中核領域である臨床死生学の研究と実践活動を軸に展開しております。臨床死生学は臨床現場で実践の知としてはたらく学問です。医療機関や介護施設、在宅医療・介護の場などの医療とケアの現場において、死生をめぐる諸問題に関し、患者（利用者）本人と家族および医療とケアに携わる人々のニーズに応え、死生学が得た知見を医療とケアに活かすことができるようなかたちにして提供しようとしています。その際、医学的にも最新の知見を取り入れます。

このように文理融合の知を創出しつつ、上廣死生学・応用倫理講座は臨床死生学と臨床倫理にまたがる研究と実践活動に注力しています。臨床倫理は臨床現場において、一人ひとりの治療やケアや療養場所などの選択に際し、本人を人として尊重する意思決定の実現を目指します。

その実践的研究の成果は医療・ケアの臨床現場に浸透しつつあり、高齢者ケアの領域などで実績をあげてきました。

当講座は東京大学大学院人文社会系研究科内におかれた死生学・応用倫理センターにおいて研究・教育・実践活動を行っており、当講座の活動に死生学・応用倫理センターの中心メンバーの協力を得て、講座のバランスある活動の展開を目指しています。

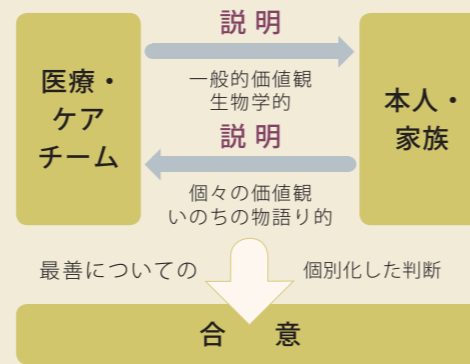
## 01 Activities

### 臨床倫理プロジェクト

本講座のおもな研究・実践活動の1つは《臨床倫理プロジェクト》です。「臨床倫理」は、医療・介護の現場で、医療・ケア従事者たちが、患者（利用者）本人や家族と対応しながら医療・ケアを進めて行く際に起きる諸問題について「どうするのがよいか」を、本人を中心に考える営みです。本プロジェクトは次の3点をおもに目指しています。

- 日本の文化に合った臨床倫理の考え方や検討の方法を見出し、それを普遍的に理解できる言葉で表現すること。これまでの研究成果である、「カンファレンスワークシート」などの臨床倫理検討シートを用いた事例検討の演習を、全国各地で行っている臨床倫理セミナーに組み込み、現場における実装を目指すこと
- 現場の医療・ケア従事者との協働で実践的研究を進め、医療・ケアの質の向上、今後の医療・ケアの望ましいあり方の実現に寄与すること
- 医療・ケアの現場で死生の問題をどう考えるべきかという臨床死生学の課題を臨床倫理的に検討すること。それによって新しい時代の看取り文化の創成に貢献すること

#### 本プロジェクトの基本的なコンセプト



#### 意思決定プロセスの「情報共有—合意」モデル

医療・ケアを提供する側が有する情報と医療・ケアを受ける本人・家族側が有する本人の生活と人生に関する情報を互いに提供して共有することをベースにしつつ、コミュニケーションを通して合意を目指します。これは清水哲郎前特任教授が国内の医療・ケア従事者と30年にわたる協働によって開発した、国内独自開発の共同意思決定（SDM：shared decision-making）のモデルです。

#### 生命に対する人生の優位

私たちのいのちには、生物学の対象になる生命という相と、自分のいのちの物語りを創りつつ一歩一歩進む人生という相があります。身体的生命が支えてくれなければ、人生は展開できません。ですから、人生を豊かに展開するために、生命を整える必要があるわけです。人生が目的として価値の源なのです。

#### 2019年度 臨床倫理セミナー・ファシリテーター養成研修の実績

「臨床倫理プロジェクト」の活動として、全国各地で医療・ケア従事者のための臨床倫理セミナー・ファシリテーター養成講座を開催し、基本的な考え方のレクチャーと事例検討の演習を行っています。毎年、全国で数多くのセミナーを開催しています。2019年度は全国で約2,600名が参加されました。また、現場で臨床倫理の事例検討会をリードするファシリテーターの養成講座も開催しています。

日程	行事	会場
5月18日(土)	ファシリテーター養成講座	北海道看護協会
5月19日(日)	臨床倫理セミナー	北海道看護協会
7月5日(金)	臨床倫理セミナー 入門	大阪府看護協会
7月6日(土)	臨床倫理セミナー	東北大学文学部
7月7日(日)	臨床倫理セミナー	岩手保健医療大学
7月21日(日)	臨床倫理セミナー	旭川大雪クリスタルホール
8月18日(日)	臨床倫理セミナー	秋田大学医学部
9月14日(土)	臨床倫理セミナー	金沢大学附属病院
10月5日(土)	臨床倫理セミナー	諏訪赤十字病院
10月26日(土)	臨床倫理セミナーアドバンス	大阪府看護協会
11月16日(土)	臨床倫理セミナー	愛媛大学医学部
11月23日(土)	臨床倫理セミナー	佐久医療センター
12月15日(日)	臨床倫理セミナー	大阪市立総合医療センター
1月10日(金)	ファシリテーター養成講座	大阪府看護協会
1月11日(土)	臨床倫理セミナー	大阪府看護協会
2月15日(土)	臨床倫理セミナー	ダイテックサカエクリエイトホール
2月16日(日)	臨床倫理セミナー	聖路加国際大学
3月14日(土)	臨床倫理セミナー(新型コロナウイルスのため中止)	久留米大学附属病院

\*臨床倫理セミナーでは、「カンファレンスワークシート」、「選択肢の益と害のアセスメント・シート」などからなる臨床倫理検討シートを使用しています。これらのワークシートは、日本の社会的文化的文脈を認識してつくられています。以下のサイトからダウンロードしてください。

<http://clinicaethics.ne.jp/cleth-prj/worksheet/>

## 02 Activities

### 意思決定支援ツールの開発と死生に関する思想的・倫理的研究

長命は人類が希求してきたところであり、医学・医療が目指してきた生存期間の延長は寿命革命につながりました。一方、さまざまな加齢変化を抱えながら最期へ向かう過程において、医療のためにかえって本人の苦痛が増す場面もみられるようになりました。多くの人にとって人生は長くなりましたが、老衰の進んだ超高齢者に負担となる医療行為が行われることも多くなりました。私たちはこのジレンマにどのように対応すべきでしょうか。これは臨床現場において「生き終わり」のあり方を考察する臨床死生学の中核のテーマです。

当講座ではこのテーマに関わる課題について、臨床現場における意思決定を支援するため、さまざまな取り組みを行ってきました。

その主だった成果として、まず、日本老年医学会の研究班員として取り組んだ「高齢者ケアの意思決定プロセスに関するガイドライン—人工的水分・栄養補給の導入を中心にして」（2012年）の策定が挙げられます。会田らの調査研究の知見と当該講座前特任教授の清水哲郎の臨床倫理の理論をあわせ、ガイドラインの草稿を作成しました。

その後、この課題を本人と家族の視点から捉え、本人と家族が医療・ケア従事者の助言を得ながら最善の選択に至ることを支援するため、『高齢者ケアと人工栄養を考える—本人・家族のための意思決定プロセスノート』を2013年に出版しました。その成果を踏まえ、慢性腎臓病の専門医療者との協働で、『高齢者ケアと人工透析を考える—本人・家族のための意思決定プロセスノート』を2015年に出版しました。いずれのノートも、本人・家族らと医療・ケア従事者が本人の最善のために一緒に考え共同意思決定（SDM）に至ることを支援するためのツールです。また、科学技術振興機構社会技術開発センター（RISTEX）のプロジェクトとして、高齢者が最期まで自分らしく生きるために、心身の健康面から今後の人生を長期的に考える『心積もりノート』を2015年に開発し、そこに会田のフレイル研究の知見を取り入れ、2018年に改訂版を発行しました。

さらに、2019年に日本老年医学会が発表した「ACP推進に関する提言」においても、会田らの研究成果が活かされています。また、本講座に日本学術振興会特別研究員として所属した日笠晴香（現・岡山大学専任講師）と本講座元研究員の園増文（現・東北大学助教）が著した『子宮内腺症で悩んでいるあなたに—意思決定プロセスノート』（2018年）でも、本講座の「情報共有—合意」モデルが取り入れられています。

さらに本講座では、意思決定支援ツールの開発に加えて、現場の臨床実践を下支えし豊かに捉え直すような多角的な思想的・倫理的研究を行い、その成果を広く社会に還元しています。その一つの成果が本講座の協力教員も執筆に加わった『医療・介護のための死生学入門』（東京大学出版会、2017年）です。2017年度から本講座に加わった早川は、人間存在の傷つきやすさや依存性に着目する「ケアの倫理」の観点から、死生をめぐる諸問題を考察することで、臨床倫理における人間理解を理論的・思想的に奥行きのあるものにするを試みています。また研究員の田村は死やケアについて透徹した思索を展開したハイデガーの研究をもとにして、人間の死生をめぐる哲学的・倫理的問題を根本的に考察し、坂井は臨床現場における本人側と医療・ケア従事者間のコミュニケーションについて社会学の方法論を用いて実証研究を行い、知見を発信しています。



## 03 Activities

### 各種活動

臨床倫理プロジェクトの研究成果を社会に還元する活動に力を入れています。社会還元は同時に、研究成果が臨床現場において実際に有効かどうかを確認し、さらに改善しようとする実践的研究でもあります。

#### 東京大学文学部・大学院人文社会系研究科での教育活動

死生学・応用倫理センターは部局横断型《死生学・応用倫理教育プログラム》を提供しています。これは全学に開かれたものであり、一定の単位を取得すると卒業時に修了証が交付されます。本講座教員は「死生学概論」、「応用倫理概論」等、本プログラムが提供する科目を数多く担当してきました。

#### 《医療・介護従事者のための死生学》基礎コース

臨床現場で働く方たちが死生についてどのように理解し、どのように医療とケアに活かしていくかを研鑽していただくための活動です。毎年、各種講義と演習で構成する夏季セミナーとレポート書き方セミナー、およびエンドオブライフ・ケアをテーマとする春季シンポジウムなどを行っています。（2020年3月のシンポジウムでは「人生の最終段階と透析療法—緩和ケアとACPの役割」をテーマとし、約850名の方から参加申込みをいただきましたが、新型コロナウイルスの影響で延期になりました）

さらに、本コースの単位として認定する研究会・講演会があります。受講者は所定の単位を取得し、修了レポートを提出すると、審査を経て修了が認定されます。

#### 臨床死生学・倫理学研究会

水曜日夜（年10回）、東京大学本郷キャンパスで開催しています。死生の問題に関わる分野の方に発表をしていただき、参加者がディスカッションする研究会です。第一線の臨床家や研究者の講演の他、死生に関わる市民の活動、若手研究者の意欲的な研究など、さまざまな場面からテーマを選んでいきます。

#### 2019年度のテーマと講演者

4月24日	「高齢社会における自己決定権」 加藤 尚武（京大名誉教授）
5月15日	「医療と生活をつなぐ歯科医療—自分らしく生きる—を亡くなる瞬間まで感じられる生活支援を目指して」 遠藤 真美（日本大学 松戸歯学部 専任講師）
6月12日	「法律実務で臨床倫理が交錯する場面で法律・司法の限界と役割」 木下 正一郎（きのした法律事務所 弁護士）
7月3日	「救命集中治療終末期医療における日米の違い」 伊藤 香（帝京大学 救急医学講座 講師）
7月17日	「死別の悲しみは癒やすものではなく—一生の宝物— 中野 貞彦（がん遺族会 青空の会 共同代表）
10月9日	「その人らしい意思決定を支えるケア—患者が希望する場所で療養するための支援—」 松本 幸絵（栃木県立がんセンターがん看護専門看護師） 寺脇 立子（栃木県立がんセンター 医療ソーシャルワーカー）
10月30日	「臓器移植をめぐる医療倫理とリエゾン精神医学」 西村 勝治（東京女子医科大学 精神医学講座 教授）
11月20日	「インフォームド・コンセントの過去・現在・未来」 鈴木 利廣（明治大学 名誉教授・学長特任補佐／弁護士）
12月18日	「心臓移植はいかに受け入れられたか」 小久保 亜早子（練馬光が丘病院 整形外科 医師 医学博士・政治学博士）
1月8日	「カントに基づく人間の尊厳概念とその現代的意義」 平出 喜代恵（京大 日本学術振興会特別研究員）

#### 国際交流

当講座では、世界の第一線で活躍する海外の研究者を招き、国際ワークショップや講演会を開催（主催・共催）しています。

11月27日(水)	国際ワークショップ “Epistemic injustice and virtue epistemology” 基調講演：ヘザー・パタリイ教授（コネチカット大学教養学部哲学科）“Closed-mindedness and arrogance”
1月21日(火)	オックスフォード大学 上廣応用倫理センター ジュリアン・サヴァレスキュ教授講演会 “The moral imperative to gene edit”
2月25日(火) (新型コロナウイルスのため中止)	国際ワークショップ “Ethics on applying genome editing technology to human reproduction” 基調講演：ドミニク・ウィルキンソン教授（オックスフォード大学 上廣応用倫理センター） “Harm, non-identity, and first line candidates for genome editing”



左から、田村未希、早川正祐、会田薫子、安野裕美、坂井愛理

Until Now

- 2002～2006年度……東京大学大学院人文社会系研究科 21世紀COE「死生学の構築」(リーダー 島菌進教授)
2007～2011年度……同 グローバルCOE「死生学の展開と組織化」
2007年度……上廣死生学講座発足
特任教授 清水哲郎 特任講師 山崎浩司 (総括監督者 島菌進教授)
(東京大学の死生学研究を強化すべく、公益財団法人上廣倫理財団の寄付金により設置)
2011年度……死生学・応用倫理センター発足(センター長 池澤優教授)
2012年度……上廣死生学・応用倫理講座(上廣死生学講座の改組、拡充)
特任教授 清水哲郎 特任准教授 会田薫子 (総括監督者 榊原哲也教授)
(山崎浩司特任講師は信州大学に准教授として転出)
2013年度……死生学・応用倫理センターに堀江宗正准教授着任
上廣講座に特任研究員3名着任
(早川正祐特任研究員は同年度末に三重県立看護大学に准教授として転出、園増文特任研究員は2014年度に東北大学に助教として転出、宮村悠介特任研究員は2014年度に愛知教育大学に助教として転出)
2015年度……上廣講座に特任研究員2名(山本栄美子、田村未希)着任
2016年度……清水哲郎特任教授が岩手保健医療大学に学長として転出
2017年度……上廣講座第3期開始 特任教授 会田薫子 特任准教授 早川正祐 (総括監督者 榊原哲也教授、2020年度より池澤優教授)
2018年度5月……死生学・応用倫理センターに小松美彦教授着任
2020年度……上廣講座に特任研究員1名(坂井愛理)着任

東京大学大学院人文社会系研究科 死生学・応用倫理センター 上廣死生学・応用倫理講座

Uehiro Division, Center for Death & Life Studies and Practical Ethics, Graduate School of Humanities and Sociology, The University of Tokyo

〒113-0033 東京都文京区本郷7-3-1 法文2号館3階25号室
Rm. 25. Bldg. Hobun No.2, 7-3-1 Hongo, Bunkyo-ku, Tokyo, 113-0033 Japan
Tel & Fax: 03-5841-2656 e-mail: dalsjp@u-tokyo.ac.jp http://www.l.u-tokyo.ac.jp/dls/



People

- 会田 薫子 特任教授 (あいたかおるこ)
略 歴 東京大学大学院医学系研究科健康科学専攻博士課程修了(保健学博士)。ハーバード大学メディカル・スクール医療倫理プログラムフェロー、上廣死生学・応用倫理講座特任准教授を経て現職。
専 門 臨床倫理学、臨床死生学、医療社会学
主要著書 『長寿時代の医療・ケア エンドオブライフの論理と倫理』(ちくま新書)、『延命医療と臨床現場：人工呼吸器と胃ろうの医療倫理学』(東京大学出版会)、『シリーズ生命倫理学第3巻 脳死・臓器移植』(丸善出版、共著)、『シリーズ死生学第5巻 医と法をめぐる生死の境界』(東京大学出版会、共著)等。
■ 早川 正祐 特任准教授 (はやかわせいすけ)
略 歴 東京大学大学院人文社会系研究科基礎文化研究専攻博士課程修了(文学博士)。上智大学哲学研究科特別研究員、東京大学上廣死生学・応用倫理講座特任研究員、三重県立看護大学看護学部准教授を経て現職。
専 門 哲学・倫理学、臨床死生学
主要著書 『Moral and Intellectual Virtues in Western and Chinese Philosophy: The Turn toward Virtue』(Routledge、共著)、『言葉の歎び・哀しみ』(東信堂、共著)。
■ 田村 未希 特任研究員 (たむらみき)
専 門 哲学
他者理解の問題に関心を持っています。人が他者を理解しようとする際、理解の枠組みはどのように変わっているのか、という関心のもとハイデガーの哲学を中心に研究しています。
■ 坂井 愛理 特任研究員 (さかいえり)
専 門 社会学
触れること・触られることを通じて、治療やケアの社会関係がどのように組織されているのかを、老いや麻痺のある身体に対するマッサージ場面を対象に分析しています。
■ 安野 裕美 特任専門職員 (やすのひろみ)
死生学・応用倫理センター
上廣死生学・応用倫理講座総括監督者 死生学・応用倫理センター長
■ 池澤 優 教授 (宗教学) (いけざわまさる)
専 門 中国宗教学史、死生学、生命倫理学
上廣講座の《医療・介護従事者のための死生学》基礎コースのセミナーで講師をするほか、東京大学の部局横断型《死生学・応用倫理教育プログラム》の立案と実施を担当し、またその分野における国際的学术交流を企画しています。
■ 小松 美彦 教授 (こまつよしひこ)
専 門 生命倫理学、科学史・科学論
人間の死生とそれを取り巻く科学技術について、文・理双方の観点から検討しています。また、その検討を通じて、死生と科学技術をめぐる倫理を考察しています。近年、特に力を入れているのは、西洋の生命観の展開史の研究です。
■ 堀江 宗正 教授 (ほりえのりちか)
専 門 死生学、宗教学
現代のスピリチュアリティ、死生観、自殺の研究を専門としています。海外の死に関わる研究者との交流・協力、理論や学説の紹介に力を入れていきたいと思っています。
■ 丸山 文隆 特任研究員 (まるやまふみたか)
専 門 哲学
人間の死と生に関するハイデガーの哲学の洞察を、現代形而上学および現代倫理学の文脈に接続させられるような仕方で解釈することを課題としております。
■ 陳 健成 特任研究員 (ちんけんせい)
専 門 近世中国儒教史
儒典の解釈(経学)を通じて、当時新しい儒学である朱子学がイデオロギーとされた明代に、皇帝の祖先祭祀の儀礼はどう変容したのかを明らかにしようとしています。
■ 矢口 直英 特任研究員 (やぐちなおひで)
専 門 医学史、思想史
イスラーム世界における医学や科学思想の歴史が専門です。宗教の影響が強い社会を生きている人々が発展させていった人体観や世界観を研究しています。

上廣死生学・応用倫理講座

Uehiro Division, Center for Death & Life Studies and Practical Ethics, Graduate School of Humanities and Sociology, The University of Tokyo



2020